

第15回 さくらんぼ争奪 オリエンテーリング二日間大会2014

2014/6/28・29 山形市中桜田 ヒルスサンピアやまがた

運営責任者
武石雄市



ME & WE (男女エリート) クラスの入賞者を表彰し簡単なコメントで紹介する武石に永年の開催に感謝のプラカードも見える。
左から堀田遼、松下睦生、寺垣内航、北翔太、小林遼、福井悠太、稲毛日菜子、番場洋子、高橋美誉、宮川早穂、山本紗穂里、名塚晴香、

惜しまれつつ最終回大会 独断専権で15回連続開催 370個ライト乱舞のナイトO インカレ前哨？の対抗戦 食べた食べたさくらんぼ！

■タシク！たのしく！楽しく！■

きっかけは定年後スキーオリエンテーリングの国内普及に取り組んでいた老輩の世界スキーOマスターズ選手権3位入賞ニュースが地方新聞に載り、地域の公民館主催事業として協会が主管を引き受けたのが始まりです。

そこは、さくらんぼの本場「佐藤錦」発祥地で生産量日本一の東根市、二つ返事でタイトルを「さくらんぼオリエンテーリング大会」として市報・本誌のプロジェクトメンバーとしてイベントカレンダーに掲載した。



朝もぎを待っている東根の佐藤錦

それを見た隣の学生や一般の人が参加し、当初、グループで楽しむレクリエーション主体であったが、2回目からは競争性を前面に個人クラスを主体としたスポーツ競技に変えた。

当然、一般市民を参加対象の公民館行事にはそぐわなくなり翌年から協会単独の「さくらんぼ大会」とし、県都山形市を会場に歩み出した。

前年、野外活動に関心があった地元小学校の教師(注1)が担任クラスの児童を引率参加していたが、担任が変わったこともあり、児童の参加は見られなくなった。

その頃から私に孫が(注2)次々と生まれるようになり、オーリンゲン(スウェーデン)で見聞したキッズOクラスも加えることで、MG(宮城学院女子大学)学生に指導の担当をお願いし、関東方面から家族の参加もあり子供たちの歓声で会場は賑やかになり、入賞賞品を「さくらんぼ」にしたことで皆、表彰式まで残る楽しみも加わって参加者も増えていった。

その頃の運営者に東北大院生であった故米本路憲(注3)が居た。彼も又オリエンテーリングに対する情熱は老輩と負けず劣らず、日本学連幹事長として学連や東北大会を話題にしては、どっぷり四つに組んで語り合い地図調査もプランを胸に秘めて県民の森の山を駆け回った。

作図も手書きからOCADに移行したことで調査も歩測からGPSが主流になり、時代の波に遅れまいと2002年町井稔氏(当時多摩OL)に「沼の森」の作図相談、その場で次回大会を二日間大会(2003年)として始まることになった。レースカテゴリも増え成績は総合成績制度に移り変わっていった。

当時の報告書を読み返すとうれしいことに参加者も運営者も当時から皆、楽しんでいただいていたことが記されています。

当初、賞品のさくらんぼは入賞者だけが手にしていましたが、入賞できなかった参加者から一粒でも良いから「さくらんぼ」を食べたい！の声上がり、翌年からは1日目のフィニッシュで全員に二粒ずつ渡し「美味しいっ！」があっちこちに木霊し、おこぼれがスタッフの口にも入り、名実とも「さくらんぼ大会」となった。

山形県協会は会員も少なく貧乏で年会費の納入が滞り、当時のJOAから退会勧告されて現在に至っています。

「さくらんぼ大会」に参加する皆が楽しいと言っているが毎年苦労するのが運営者の確保、穴を埋めてくれるのが主として東北大OB/OGですが、彼等・彼女等から愚痴一つ聞いたことがありません。

現役時代数年の経験でボランティアをひきうけてくねながら老輩の事情を承知し、人事もチーフを中心に器具用

具もてきばきと用意し、終了後の撤収作業等スケジュールは1分の無駄なく処理され、その様を見て毎年頭が下がります。

2日間大会となって12回、故米本くん以来時々聞こえてきたのが「さくらんぼ大会の運営は楽しい！」です。

渉外、準備・整理、借受・返却等一人走り回っている老輩ですが、馳せ参じてくれた学生からその声を聴くと何もかも忘れるほどうれしく家族の心配をよそに「今年も開催して良かった！」と楽しささえ覚えるのです。

参加も楽し、運営も楽し、主宰又楽し。

- 注1 当時5年生クラス担任教師で野外活動を大事にし、子供たちを引率参加。後、筆者の近傍小学校の校長で赴任、オリエンテリングクラブを設置、筆者を5年前から指導者と指名している。
- 注2 1994年初孫誕生、2006年まで13年間に6男3女、9人の孫に恵まれた。
- 注3 石川県野々市市出身、2006年4月、難病のため急逝。東北大クラブは遺徳を偲び毎年「米本杯」大会を開催している。

■日本最高齢オリエンティア■

さくらんぼ大会のクラス設定は37クラスです。一番の特徴は若年齢クラス及び高齢者クラスは一人でも参加者が居る限りクラス統合が無いことです。

これはIOFルール・ガイドラインの意向を戴しており、胸を張って自慢できる。フットO・スキーOの全日本大会でも面倒がらずに是非とも検討してほしいと強調します。

一地方の田舎大会で出来て国内最高大会で出来ない筈はないと思います。

電算処理が進歩した現在、やる気の有無だけです。各大会も是非検討して頂きたい。それはとりもなおさず参加者増として見返りがあるのです。

多くの高齢者がその決定を待っているのです。

さて、本年も男女とも日本最高齢クラスの参加年齢が更新されました。

スタッフが少なくカメラマンの指名忘れもあり残念ながら写真は残っていません。

M85Aの金井一さんは89歳、W80Aの三好良子さんは84歳、全レースの完走が出来ませんでしたが、お二方とも危険を避けマイペースで、スタートすることをモチベーションに安全第一、周りに迷惑掛けることなく楽しんでくれました。若輩者としてこの心がけこそ見習うべきものと得心しました。



2011年大会(西藏王)金井さん
スプリントスタート直後の雄姿



三好良子さん、ミドルのフィニッシュ

三好さんは必ず1日目の前日に到着、二日目の夜も宿泊するのが慣例でした。

本大会高齢者クラスの参加数は下表

	60	65	70	75	80	85	T
M	13	9	5	8	2	1	38
W	2	2	2	1	1	0	8
T	15	11	7	9	3	1	46

現在、JOA公認大会の高齢者クラスは運営側の都合?で上限クラスの頭切りしている。IOFルールに従い5歳毎クラスを設置し、参加者が一人だからとクラス統合するが、間もなく、団塊の世代が70歳代になり、生涯スポーツとして競争性を保持したマスターズ大会制度を参考とするよう関係者に猛省を促したい。

翻って、学童クラスのクラス分けも又然りである。



大会最年少特別賞をもらってうれしい
8歳 武石真柊(左) 11歳 佐藤実紀(右)
本大会はクラスの統合が無いためクラス数は37クラスでした。

■学生クラブ対抗戦■

さくらんぼ大会は10年ほど前まで筑波一東北一宮城学院(MG)の持ち回り対抗戦を併設し盛り上がっていたが、いつの間にか筑波大のクラブ員減少等で消えかかり、岩手県立大・福島大の参加で、北・東北ブロックの対抗戦が併設することもあった。

一昨年(2013年蔵王温泉大会)、京大・阪大をはじめ、関西方面の学生が多数参加したことで学生クラブ対抗戦を計画した。

結果的には東京大学が優勝した。本年、3回目の対抗戦実施を決め対象校を集計したところ20大学になった。

ミドル、ナイト、ロングの成績順に配点した結果15大学が得点した。

大学クラブ対抗 得点結果

順位	クラブ	ミドル	ナイト	ロング	合計
1	東大OLK	21	13	24	58
2	東北大学	28	7	22	57
3	岩手大学	19	3	18	40
4	早稲田大学	12	6	16	34
5	KOLC	15	4	13	32
6	筑波大学	4	14	11	29
7	京都大学	8	2	5	15
8	新潟大学	7	3	1	11
8	大阪大学	6	2	3	11
10	宮城学院女子	5	1	4	10
11	岩手県立大学	5	0	4	9
12	群馬大学	3	0	5	8
13	東京工業大学	0	3	0	3
13	北海道大学	0	0	3	3
15	福島大学	0	2	0	2

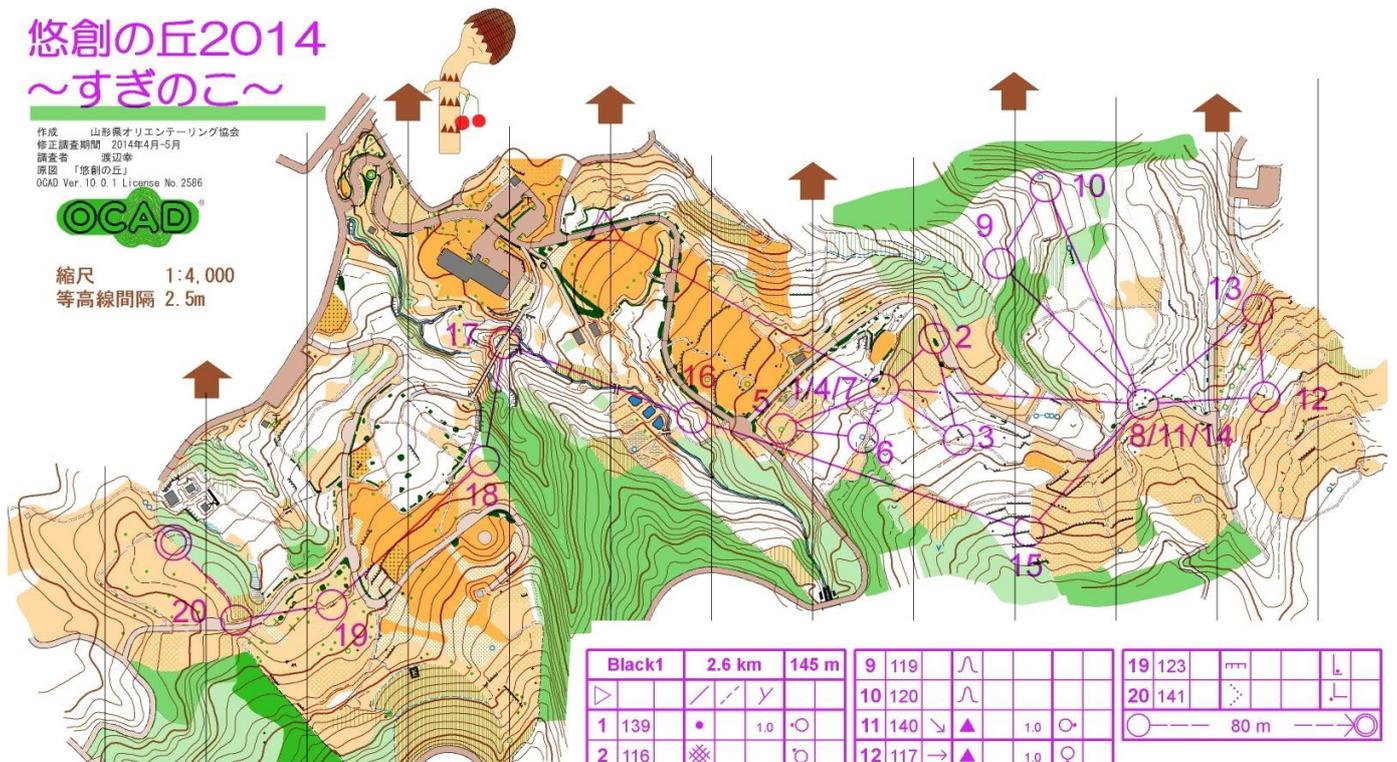
日本学連は26年度JOA加盟が承認され会員となった。ブロックの対応等詳細は不承ですが、学生たちの参加機運を盛り上げる参考にしてほしい。

悠創の丘2014 ～すぎのこ～

作成 山形県オリエンテーリング協会
修正調査期間 2014年4月-5月
調査者 高辺幸
原図 悠創の丘
OCAD Ver. 10.0.1 License No. 2586



縮尺 1:4,000
等高線間隔 2.5m



**第15回さくらんぼ争奪
オリエンテーリング大会2014
2nd Stage Night 2014/6/28**

フィニッシュ閉鎖時刻 21:20

Black1	2.6 km	145 m	9 119	∩				19 123	mm		L
▷	/ / \		10 120	∩				20 141	▷		L
1 139	•	1.0	11 140	▲	1.0	○		○ --- 80 m --- ○			
2 116	※		12 117	→	▲	1.0	♀				
3 137	•	1.0	13 121	mm			○				
4 139	•	1.0	14 140	▷	▲	1.0	○				
5 130	△		15 147	mm			○				
6 127	☐		16 149	∩							
7 139	•	1.0	17 126	/ / \							
8 140	▷	▲	18 124	▷			L				

■日本最大のナイトO競技■

第3回から毎回実施しているナイトオリエンテーリングは参加者が年々増加し、今年の参加人数370名。

今回のテレインは都市公園なので閉門が22:00の絶対条件。

競技時間内にフィニッシュさせるには20:30スタートが限界。予想以上の参加者増で11クラスに増加、トップスタートを19:50に前倒し小雨振る中、粛々とスタートしていた。

これほど人気のナイトOだが首都圏の女子学生は不安で先輩と前後のスタート時刻を要求してきた。勿論、要求に応えた。ベテランの中には侮ってライトがアウトになり地図が読めずロストポジション。閉門ぎりぎりにフィニッシュする羽目の者もいた。

日本最大のナイトOは何とか事故なく終わり、スタッフは引き上げるや否や温泉に飛び込み冷えた体を温めた。

スタッフも引き上げた後、筆者は各門ロックのため巡回、賑やかだった草原の一角で、数匹の源氏蛍が静かに光の輪を書いているのを見た。

時は既に23:00を回っていた。

■変な迷子が出たロング■

6/29、05:30雨、気象予報的中。雷が心配だが、スタッフに大会は予定通り実施することを告げた。参加者も続々会場に到着、スタート地区に向かう。フィニッシュは会場東側路上、各クラスのウイニングタイムも想定通り？朝の雨とレース中に高度エリアを通過する選手たちは雨に当り大抵がびしょ濡れになった。

レース経過はほぼ予想通りでしたが、ロストしてマップ外に出てしまい、リロケーションは勿論フィニッシュに向かう事も出来ない迷子が2名出現した。

その① W20A

ラストコントロールに向かって快適に道を走ってコーナーを右折してもコントロールはなく住宅街の一角にある消防出張所であった。本人がヘルプの電話を掛けてきた。場所を確認するとそこは会場から数Km南西の山形市消防署南出張所でした。直ちに役員が車で送迎した。

その② クラス不明、女性

スタート後、随分の時間樹海らしき山中を放浪し道に出たが現在地不明で農家に入り事情を話した。家人の男性がマップの連絡先に電話してきた。場所は蔵王山田集落、電話の主人に役員が迎えに出ることを伝えたが、電話の主人は雨も降っているし自分が会場に送り届けると短く申し電話が切れた。

筆者は礼を言うため、車の会場到着を気にかけていたが、表彰前の混雑で見逃してしまい、お礼の挨拶が出来なかった。

28日のミドルでは1名の救急車搬送と数名の負傷者がでた。ロングは会場中の医師の診断受診者が3名のみ、大事に至らなくてまずは胸をなでおろした。

“注” 毎年、山形市に救急車出動要請の事態なので、前もって山形市救急隊にはAEDの貸し出しの事、救急車要請時は事情を聴く前に救急車を会場に向かわせ、途中で事情の聴取を行うよう打ち合わせていた。

■プログラム発行遅れ事情■

本年のプログラム編集はいかがでしたか。編集者は石塚脩之氏（青葉会）

石塚氏は矢板インカレ（平成 26 年 3 月）のプログラム編集者で評判も高い。その原点は 2010 年さくらんぼ大会のプログラムに遡る。それ以来種々の大会プログラムを手掛けたが、本大会が最終回の噂を聞き、自身は参加エントリーしていたが、プログラム編集の原点であった本大会最終版の編集をしたいと自ら申し出てきた。

彼はおり悪く勤務先の会社も繁忙、編集に影響ある変化も出現、彼は 2 昼夜ほど睡眠皆無で仕上げてくれた。

そんな事情もあり、石塚氏に感謝するとともに皆様に発行が遅れたことをお詫び申し上げます。

■競技アイデアと最高マップー

2003 年二日間大会になり、レース名称も I O F ルールからショートディスタンスが消え、スプリントとミドルに分割された。地図調査者も随分入れ替わり、多くの調査者が出入りしたが、地図作図は主として町井稔氏が指導し総合調製した。

ナイトーOも続けていたが県民の森では距離が長めだったのをライザ、東根の都市公園あたりからウイニングタイムをスプリントに変更し、ナイトOはその頃から徐々に参加者が増えてきた。それらのレースアイデアは町井氏の手腕で筆者は安全管理に気を配ることので足りていった。

思えば 33 年前、山形に転勤、当時学生の町井氏と西藏王テレンで逢い、山中で彼のコンパスを拾ったこと、丹念に調査し製図ペンで綺麗な地図を書く町井氏に強い印象が残っています。

調査も GPS 時代になり、製図は OCAD になっても町井氏の O-MAP は経験と手腕を発揮し、益々磨きがかかり、国内ではトップマップーの一人に数えられる。

さくらんぼ大会の大半は町井稔氏の功績によるもので、筆者は心から感謝しています。

■色紙のコメント集め■

さくらんぼ大会もエリート選手たち（WE/ME クラス）の表彰も終わり、最後にこの大会を支えてくれた参加者の皆様と長年にわたって役員をしてくれた仲間にお礼を申し上げようとしたその時、長女がマイクを取り上げ、小さい孫たちが全紙に色塗りした 2 枚の紙を広げた。



陰に隠された爺々は何も言えなくなり、そしてステージに上げられ、分厚い色紙の束をプレゼントされた。



10 枚の色紙をもらい、しかし感激のあまりただ「有難うございました」と繰り返して頭を下げることだけになった。

帰宅し、色紙に目を通すとそこにはなんと 259 名の方々のコメントが書かれていた。

夜更けも構わず読ませてもらい、うれし涙で字が霞む幸せが朝まで続いた。

小さな季香（孫）の行いを想像し改めて涙した。

■人生 下り坂が最高！ ■

60 歳から先 70 歳代前半は、体力を始めとして人生で一番充実した時代であったことが思い出されます。

幸せなことに、私はこの年代をオリエンテーリングのため自由奔放に思う存分行動することが出来ました。

趣味やスポーツの楽しみをもっと楽しむために、共通の仲間を増やし、後に続く若者を育て、先輩を敬い、自己の身体に感謝し、真のボランティアをすることでその幸せに毎日のように心地よく酔える年代と知った。

年齢を超えた素晴らしい仲間を持つことができ、40 回を超えるヨーロッパ遠征は世界に友人を増やしてくれた。

3 年半前、東日本大震災の数日後も陸海空すべての交通アクセスが混乱する中、スキーO世界選手権大会（リレハンメル、ノルウェー）会場入りで選手始めオフィシャル全員が温かく迎えてくれたこと、激励金のカンパで集めたお金（20 数万円）が各国の貴重な通貨であったことなども頷ける。

そんな我が道だけを走ってきた一人の我が侘な爺を、私の家族はあきらめもせず、我慢をもって温かく支えてくれた。

恥ずかしながら 心から「有難う」を言わせてもらいます。

オリエンテーリングよ永遠であれ！
みなさま ごきげんよう！

（武石雄市）